

立教大学 ESD 研究所

Research Center for Education for Sustainable Development, Rikkyo University

活動目的

環境教育・開発教育を2本柱に、ESDの研究および実践を行い、様々な社会問題(環境問題・人権問題・平和問題・貧困問題など)の解決に取り組み、持続可能な社会の構築に貢献する。

ESD 研究の視座

持続可能な社会を築くために必要なアプローチ

地域や社会、文化には、様々な価値観や多様性があることを人々に認知してもらい、それを受け入れてもらうためのESDを確立する。

人文科学、社会科学、自然科学など、各研究分野の成果を積極的かつ柔軟に取り入れ、ESDを有効に機能させる。

- 社会の諸問題を包括しうる理論の創出
- 理論に基づいたプログラム・教材の開発
- 実践活動によるESDの普及、理論の精査

研究プロジェクト

- ・ 生物多様性における ESD
- ・ 地域における ESD の導入
- ・ HESD 研究ならびに学内における ESD の推進
- ・ DESD の推進に向けた活動
- ・ 福島原発事故に対応した ESD プログラムの開発

ESD RC
Education for Sustainable Development Research Center
Rikkyo University

=これまでの活動=

●東アジア(韓国、中国、台湾、日本)さらにはこれら4カ国に英国・ドイツ・米国・タイ・インド・フィリピン・インドネシア・フィジーなどを含む、サステナビリティに取り組む大学の国際ネットワークを形成。

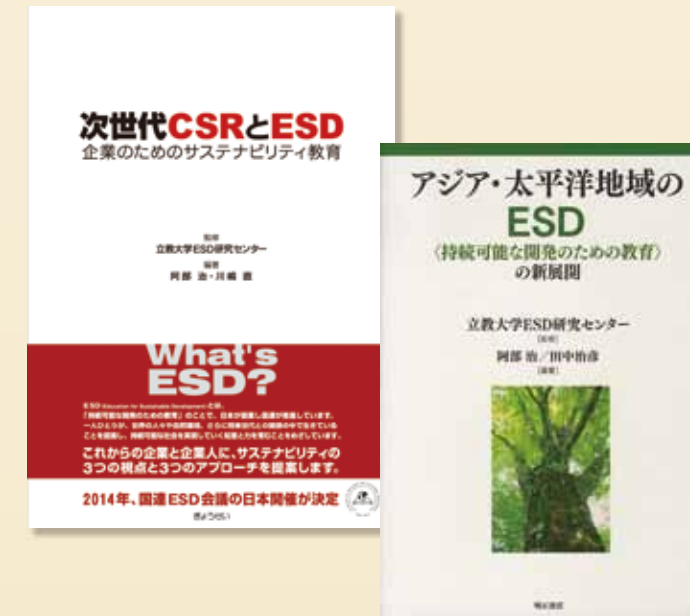


●大学生を対象にしたパイロット授業を経て、研究で得られた知見を活用し、導入・理論・実践の段階でESDを学べる講座を、全学共通カリキュラム及び異文化コミュニケーション研究科内に開設した。



●各研究成果を国内外でのワークショップの実施により普及した結果、社会的な需要が認められ、各業界の活動におけるESDの重要性と導入意義の認知を促進することに貢献。

●ESD 関連書籍『アジア・太平洋地域の ESD』『次世代 CSR と ESD』等の刊行



●各地の教育機関、民間団体、地域住民など、ESDに関心のある様々なステークホルダーと連携して、ワークショップなどの ESD 手法の検討・開発を行った。



●「地元学」の学びを活かしつつ、「ESD 拠点としての自然学校」などを事例に、ESD ネットワークを構築し、そのハブとしての役割を果たした。



アジア・太平洋地域における主要機関の ESD 推進担当者を招き、国際シンポジウムを開催。ESD の成果と課題を共有し、今後の連携体制を構築した。

●ESD 研究と実践において、国内外の研究教育機関、国際・地域・国家・地方機関、企業・NGO などとの連携・協働が生まれ、本研究所のプロジェクトが追求してきた産学連携による高度職業人養成に繋がった。



●国際研究誌『J. of HESD』アジア特集号の編集が本研究所のプロジェクトを中心に始まった。

この結果として、高等教育機関のネットワークである「HESD フォーラム」を設立し、ユネスコがまとめたグッド・プラクティスとして選定された。

ESD の社会的認知のみならず、サステナビリティを高等教育機関(USR)の社会的責任の一つとして導入する社会的潮流を作った。



=持続可能な地域づくりに向けた活動=

風土かふえ

●ESD 研究センター時代に、地元の町会、商店街、NPO などと共に「風土(かぜつち)かふえ」を開催。

「風土かふえ」とは・・・

風のひと(外から来たひと)、土のひと(地元のひと)とが気軽に集い、喫茶を楽しみながら地元のさまざまな魅力について楽しく語り合う場。



大学や地域を巻き込みながらサステナビリティを主流化すべく開発した教育企画「Eco Opera!」と共に、地域と大学をつなぐ接着剤として機能してきた。



東京芸術劇場との連携

●2011年6月7日、立教大学と東京芸術劇場との間で、包括的な連携協定を締結。ESD研究センターがつなぎ役となり、持続可能な「西池袋」づくりに向けた協働・行動が始まる。



協定締結記念シンポジウム「西池袋」を刺激する!

●2011年11月28日、協定締結記念シンポジウムを開催。「西池袋」を刺激する!—東京芸術劇場×立教大学による持続可能な地域づくり—

●2012年7月10日、NPO法人ゼファー池袋まちづくりも参画し、第2弾シンポジウム「西池袋」を刺激する! Part2—豊島区制施行80周年で西口公園が変わる—を開催。



持続可能な地域づくりをめざす、マルチ・ステークホルダー・ダイアログの場を構築し、現在に到っている。

「池袋学」

●地域との関係に「共創」の場を構築する——「共に創る」作業を行う段階へ。

「池袋学」開講

2014年度から、立教大学と東京芸術劇場の連携による「池袋学」を開講。池袋に住む人、働く人、学ぶ人、訪れる人……など様々な人びとと共に、池袋の歴史や文化を探り、未来を考え、独自の「池袋文化」の発信をめざす。

●2014年1月18日に開講記念シンポジウム「池袋学」への招待～ひと、アート、環境から池袋を考える～を開催(於・東京芸術劇場)。

立教大学と東京芸術劇場という西池袋の2つの拠点が、それぞれの持ち味を生かして地域づくりのために協働し、学生も含めた地域住民が中心的役割を担っていくことをめざす。